ジャパントラストかわら版 情熱羅針盤 vol.241

突然始まった「燃料関連の緊急サーチャージ（ERC / EBS / EFS）」— 何が起きているのか

2026年3月、各船社より**燃料関連の緊急サーチャージ（ERC / EBS / EFS）導入**の案内が相次いでいます。背景にあるのは、短期間で急騰した船舶燃料価格です。今回は、この緊急サーチャージとは何なのか。なぜ今発生し、今後どうなる可能性があるのかを整理します。

※ ERC(Emergency Revenue Charge) EBS(Emergency Bunker Surcharge) EFS(Emergency Fuel Surcharge)　各社により名称が異なります。

なぜ今、緊急サーチャージなのか

今回のポイントは、**価格水準ではなく上昇スピード**です。船社が見ているのは原油ではなく「船舶燃料（バンカー価格）」です。

数週間の間に大幅な上昇が発生。通常の見直しサイクル（四半期月次等）では吸収できず、**緊急サーチャージという形で即時調整**が行われています。

EBS / EFS とは

急激な燃料価格の変動に対応する一時的な追加サーチャージです。船社によって名称は異なりますが、いずれも既存の燃料回収メカニズムとは別建てで導入されています。

通常の燃料調整（BAF/FFF/MFR等）は月次～四半期で見直されるため、急騰時にはタイムラグが生じます。
この**「燃料支払い」と「運賃回収」の時間差**を埋める仕組みです。

過去にも起きている

燃料ショックは今回が初めてではありません。

2018年 5月～	燃料価格が急騰し、一時的なサーチャージ（EBS）が導入されました。 その後、低硫黄燃料規制（IMO2020）への対応として、BAF制度の見直しが2019年末～2020年にかけて実施されています。
2021年 年初～	コロナ禍からの経済再開で海上輸送需要が急回復。燃料価格が上昇し、燃料関連費用の見直しが進みました。
2022年 3月～	ロシア・ウクライナ情勢によりエネルギー市場が混乱。燃料価格は急騰しましたが、その後徐々に落ち着きました。

いずれのケースでも、**急激な燃料価格の変動に対する短期的な対応**として導入されています。

いつまで続くのか

現時点で、各船社とも**終了時期は明示されていません**。見直しタイミングも、

- 2週間単位で見直す船社
- 月次で見直す船社

など対応はさまざまです。燃料価格が落ち着けば

- 撤廃
- 通常BAFへの吸収

の可能性がありますが、**中東情勢もあり先行きは不透明**です。

コスト管理のために — 今できること

ERC/EBS/EFSは船社ごとに金額・導入時期・適用条件が異なり、**同じ輸送でもコスト差が生まれやすい局面**です。
見直しタイミングも船社によってバラバラで、情勢次第で短期間に条件が変わります。

このような局面では、各船社の動向を継続的に把握し、比較・検討することがこれまで以上に重要になります。
各船社の条件を**横断的に比較**し、**輸送全体の最適化**を図ることが、この局面でのコスト管理のポイントです。

- 複数船社の条件を比較し、最適な選択肢を把握する
- 見直しタイミングを確認し、出荷時期の調整余地を検討する
- 最新動向を継続的にウォッチし、変化に備える

ジャパントラストでは各船社の**最新動向を注視**し、**最適な輸送手配やコスト面のご提案**を行っております。

EBS/EFSに関する最新情報や個別のご相談はぜひ**お気軽に担当営業まで**お問い合わせください！

【4月のアメリカの祝日】　なし